

本学の北側に 「獨協大学コミュニティスクエア」が 2023年4月完成予定

2023年4月、本学の北側に位置する新たな敷地に、「獨協大学コミュニティスクエア」が完成する。

この建物は、「学術研究・教育活動×地域との開放的な交流の場」をコンセプトに、自由度の高い第二のキャンパスとして利用されるほか、獨協大学前駅西口周辺エリアの地域活性化に資することが期待されている。

また、周囲の施設や自然との融合を図りながらSDGs達成を目標に掲げており、国土交通省のサステナブル建築物等先導事業「省CO₂先導プロジェクト2021」に採択され、ゼロエミッション建物として、CO₂排出量削減を目指す。



2022年度9月卒業式を挙

9月20日、2022年度9月卒業式・学位記授与式を天野貞祐記念館大講堂で挙行し、52名の卒業生が本学を巣立った。

山路朝彦学長は式辞で「本日卒業の皆さまには、直面する幾多の課題に対応できる『感性と技能』、人の悲しみに共感できる『想像力』に一層の磨きをかけ、『自信』をもって仕事に生活に臨み、揺るぎない人生を築いていただきたい」と述べた。

また、卒業生を代表して染谷英利さん(環4年)は「獨協大学では経済学部での学びに加え他学部の授業も積極的に履修した。特に『介護ボランティア論と実践』という科目で学んだ『バリデーション』という認知症患者に対するコミュニケーション技法には強く心を動かされた。本学で学んだことを活かし、人生という旅路を歩んでいきたい」と謝辞を述べた。

■学士 独3名、英14名、仏2名、交10名、言3名、済5名、営6名、環3名、律3名、関2名、総1名 計52名



オープンキャンパスを開催

6月5日、8月6・7・27・28日、10月2日に、人数制限やコロナウイルス感染症対策を徹底したうえで来場型のオープンキャンパスを開催。高校3年生に加え、高校1、2年生やご父母など、6日間で計11,328名の来場があった。

模擬授業やキャンパスツアーのほか、在学生トークライブなどの企画に、多くの高校生が参加した。当日の運営にあたった学生スタッフの加賀田真衣さん(環3年)は「私はオープンキャンパスに来て受験をしようと決めた。1人でも多くの高校生に魅力が伝われば」と語ってくれた。



真剣な表情で相談する来場者

2022年度防災基本訓練実施

10月19日、2022年度防災基本訓練を実施した。授業中に「首都直下地震」が発生し、震度6強の地震に見舞われたという想定で、学生・教職員がシェイクアウト訓練、避難者安否情報集約訓練、および避難誘導訓練を行った。また、希望者参加訓練では、避難所設営訓練、備蓄品の配布訓練を実施。避難所設営訓練では、草加市危機管理課の協力を得て災害対策用のテントなどを設営したほか、障がい者支援の取り組みとしてイーバックチェア利用想定訓練も実施した。



3年ぶりに起震車体験等も実施
(草加八潮消防組合協力)

ウクライナ学生の受入れについて (キーウ国立言語大学との 協定締結)

昨今の危機的情勢により、安全な生活と学習の環境を失ったウクライナの学生に学修機会を提供するために、本学はキーウ国立言語大学(KNLU)と学生受入れに関する協定を締結した。

この協定に基づき、同大学で日本語を学んでいる3名の学生を秋学期から受入れた。うち2名は、本学キャンパスで日本語などの授業科目を履修している。まだ来日できていない1名も現在オンラインで授業を履修している。また、修学支援として奨学金の支給などの支援を行っている。

※キーウ国立言語大学

1948年にキエフ国立外国語教育研究所として設立され、1994年にキーウ国立言語大学に名称を変更した。学生数は約6,000名。日本語専攻を設置している。

創設者天野先生のご令孫、安川氏が本学に寄付

本学創設者天野貞祐先生のご令孫で本学卒業(72年 経済)の安川ひろし氏より、コロナに対する学生支援として多額の寄付を頂いたことを顕彰するプレートが、天野貞祐記念館入口に設置された。プレートには本学からの感謝の意とともに、世界を舞台にビジネスを展開してきた自身の経験の支えになった天野先生の言葉が散りばめられている。安川氏は「皆さんも、世界に挑戦し、自分というブランドを確立してほしい」と獨大生へメッセージを送ってくださった。



オープンカレッジ特別講座

「オーストリア皇妃エリザベート

— 歴史・映画・演劇の中の虚像と実像 —

8月6日、天野貞祐記念館大講堂にてオープンカレッジ特別講座を開催した。ドイツ語学科 上村敏郎准教授、常石史子准教授、三宅専任講師の3名の報告は、各専門分野である歴史学、映画研究、演劇学の立場から、ミュージカルでも高い人気を誇るエリザベート像を検証する内容となった。

終盤には、ドイツ語学科長 青山愛香教授の進行により、3名の報告者が互いに内容を補足し、全体を振り返った。

本特別講座は、主に社会人を対象とした生涯学習講座「オープンカレッジ」の無料講演会。申し込み多数のため抽選に通った230名が来場し、併用したオンライン配信では1,180名が受講した。

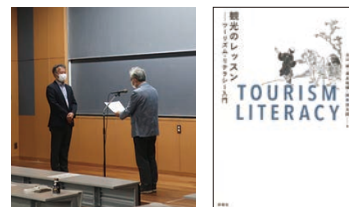


まとめ(相互トーク)の様子

教員著作『観光のレッスン』が 2つの学会賞を受賞

本学交流文化学科でツーリズム関連科目を担当する山口誠教授、須永和博教授、鈴木涼太郎教授の共著『観光のレッスン—ツーリズムリテラシー入門』(新曜社、2021年)が、第15回日本観光研究学会 学会賞・観光著作賞(一般)、および2022年度観光学術学会 学会賞・教育啓蒙著作賞を受賞。

日本観光研究学会と観光学術学会は、いずれも国内最大規模の観光系の学術団体。本書は「初学者に対して、これまでにない切り口で観光を学ぶことの意義を示した良書」として高い評価を受けた。



大学からのお知らせ

雄飛祭

第58回雄飛祭 11月4日(金)・5日(土)

- テーマ 「Happy Holidays!」雄飛祭に少し早いクリスマスがやってきた!
- イベント 《両日》・開祭式 閉祭式 in2022 ・学生団体による発表 ・模擬店
・ホラーハウス ・フォトコンテスト ・セルフ写真館 ・脱出ゲーム/緑日
《5日》・グランツコンテスト ・バブルサッカー ・よしもとお笑いライブ2022
- Twitter・Instagram @yuhifes



フォーラム

第33回獨協インターナショナル・フォーラム

新しい時代と生涯キャリア教育

— ドイツの「国家継続職業教育戦略」から何を学べるか? —

日時：11月19日(土) 10:00~17:30
申込方法：QRコードより要事前予約[定員あり 申込締切11月16日(水)]
会場：W棟104教室、同時にオンライン配信あり(Zoom)
使用言語：日本語、ドイツ語(同時通訳)
問い合わせ：国際交流センター(パンフレット配布中)



産業や社会構造の変化の中、生涯にわたる継続的スキル養成が求められる。日本では企業のスキル養成機能が低下し、長期的観点から公的枠組みによる継続的スキル養成の必要性が増している。本フォーラムでは、継続的職業教育に国を挙げて取り組んでいるドイツの事例を検討し、我が国のあり方を考える。コーディネーターは、大重光太郎教授(外国語学部ドイツ語学科)

第6回図書館講演会を開催

6月29日、第6回図書館講演会を開催した。学生・教職員のほか、オープンカレッジ受講生、卒業生も含む約80名が参加。本学ドイツ語学科の青山愛香教授が「レオナルド・ダ・ヴィンチとデューラー —レオナルドの『手稿』から読み解くルネサンス美術—」というテーマで講演した。

青山教授は、レオナルドの思想や芸術がデューラーの作品や今日の世相にまで通じる部分があると解説。講演後、参加者は貴重図書を鑑賞し、手稿の大きさや、素描の緻密さを体感していた。

